西日本新聞

発行所
西日本新聞社
福岡市中央区天神1丁目
4番1号（〒810-8721）
©西日本新聞社 2011年

3月27日
（日曜日）

ため池散歩

水辺の人々

―⑤―

地域で残す憩いの場

2001年に開設された北九州学術研究都市（若松区ひびきの）の一角にある「ひびきの南公園」（約4㌶）の中に、ため池があります。ため池は広さ1㌶ほどで、カモが泳ぐ姿やトンボが飛び交う光景が心を和ませます。子どもが周辺を駆け回るこの憩いの場は、北九州市立大、住民、行政が一緒に造り上げたまものなのです。

学研都市の建設に伴い公園建設の構想が出た時、昔から近くの田畑を潤してきたため池は、地元の水利組合からの保全要請もあって残されることになり、今も農業用水として使われています。

公園整備は一般的に行政主導で進みます。しかし、この公園のデザインを提案したのは、国際環境工学部建築デザイン学科で学ぶ私の学生たちでした。最終的には市が決めますが、ソフトボール場やトイレ、遊具広場などの学生の提案は、04年の基本設計でそこかしこに反映されました。

ひびきの南公園

公園づくりには地域も巻き込みました。地域住民に公園の名を募り、学生の提案の審査にも加わってもらいました。05年4月に公園の一部がオープンする前には、現地でワークショップを開きました。地元の小学生ら約40人が、池の生物や植物を観察し、生態系を壊す周囲の竹を切り出して鉄棒を作りました。子どもには水辺に親しんでもらえたと思います。

学研都市は名前の通り研究機関が集まった固いイメージがあります。でも、この公園のほかにもう一つ、動植物が生息する大きなため池があり、自然豊かな場所でもあるのです。

公園は東側が09年4月に完成し、家族と水辺を散歩すると、とても気持ちがいいものです。しかし残念ながら、ため池は宅地開発などで全国的に減少傾向にあります。

保全され愛されているひびきの南公園のため池は、本当に「幸せ者」です。いろんな分野の人たちが関わると、皆が深い愛着を抱き保全につながります。各地のため池も長く後世に残るよう、このような手法で保全に取り組んではどうでしょうか。

（聞き手・小川俊一）

北九州市立大准教授
Dewancker Bart
デワンカー・バートさん（45）＝若松区ひびきの

ため池が広がるひびきの南公園の模型とバート准教授。大学、住民、行政が共同で造り上げた

環境に配慮し建設計画

北九州学術研究都市は、北九州市がアジアにおける学術拠点として整備を進める大学や研究機関の集積地。第1期工事（約121㌶）は2005年度に終了、現在第2期工事（約136㌶）が実施されている。

敷地は若松区と八幡西区にまたがり、北九州市立大や同大大学院のほか、早稲田大、福岡大、九州工業大の各大学院も立地。半導体関連企業など50以上の企業も進出しており、商業施設や住宅街も立ち並ぶ。第1期工事前には、メダカやカスミサンショウウオ、キンランなどの希少動植物の存在が指摘され、舟尾山周辺の緑地やため池などを保全しようと、環境に配慮した建設計画が策定された。